



## 強い絆で結ばれた長期研修者たち

長期研修が始まったのは、昭和44年、あれから今年で32年目、ちょうど1,400人に達しました。6か月又は1年間長期研修を経験してこられた先生方がこんなにもおられるということになります。

先日、センターの受付に「長研第6期生の〇〇ですが当時の名簿はありませんか？実は同期会をするために住所録等の名簿を作成するために必要なのです。と年輩の方が訪ねてこられました。早速当時の名簿を確認し、コピーをお渡ししました。

それからひと月余り経って、丁寧なお礼状に名簿が添えられていました。

「センターの資料を参考にいろいろと手を尽くしてやっと名簿が完成いたしました。現職を定年退職し、家庭教育相談員や自治公民館長、県立博物館友の会会員等と元気で活躍している方々もいます。…（後略）作成しました名簿を同封いたします。何か資料になりましたら御使用ください。」

6期生といえば昭和46年度後期17人が名前を連ねています。当時30代のメンバーですから年齢は推察できます。30年の時を経てなお同期会ができるエネルギーはどこからくるのでしょうか。

長期研修の6か月間で強い絆が結ばれたことは確かです。自分の教育実践上の課題を踏まえて研究主題を設定し、専門的に研究するとともに教育全般について研修することが長期研修の目標です。

エネルギーの源は、一緒に入所した17人が研究に苦悩し、お互いに慰め合い、励まし合いながら一つ一つの壁を乗り越え、それぞれが研修報告書という形あるものにまとめ上げたときの感動を共有したことにあるのかもしれませんが。すなわち同じ目標をもち、共に助け合った仲間意識が強く働いているのでしょうか。同じ釜の飯を食べた仲間の絆の強さでしょうか…また、長期研修を終えてもお互いに連絡を取り合い高め合ってきたからでしょうか…といろいろと考えることです。

時は流れ、研究テーマや研究領域は不易と流行を繰り返しながら現在に至っています。

平成13年度の長研者も今6期生と同じ経験をしながら充実した日々を送っているように見えます。長期研修はかくも充実しているのです。11月中に募集公文を各学校にお届けします。是非応募ください。

平成13年度の長期研修者の教科・部門別人数は、次の表のとおりです。

教科・部門	小	中	高	特	合	教科・部門	小	中	高	特	合
国語	2	0	0	0	2	国際理解	2	0	0	0	2
社会	1	1	0	0	2	総合的な学習	2	0	0	0	2
算数、数学	1	1	0	0	2	教育方法	1	0	0	0	1
理科	1	1	2	0	4	生徒指導	1	3	0	0	4
音楽	1	1	0	0	2	教育相談	1	0	0	0	1
図画工作、美術	1	1	0	0	2	情報教育	1	0	1	0	2
体育、保健体育	1	1	0	0	2	心の教育	1	0	0	0	1
家庭、技・家 道 徳	0	0	1	0	1	特殊教育	0	0	0	1	1
	2	0	0	0	2	合計	19	9	4	1	33